

令和元年度 第 6 回 御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会 会議録

日 時： 令和 2 年 2 月 25 日(火)

13:00 ～ 17:00

場 所： 御殿場市役所 東館 2 階 201-203 会議室

1 出席者

〔御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会 委員〕※敬称略

渡邊 恵子、児島 洋美、小宮山 なほみ、鎌野 順子、刈山 祐江、勝亦 恵美子、立道 佳之、
山本 裕一、杉山 清、芹澤 知輝、鈴木 峻介、勝又 洋平、勝又 美絵 計 14 名

〔御殿場市市民協働型まちづくりアドバイザー〕※敬称略

牛山 久仁彦（明治大学 政治経済学部教授）

〔事務局(市民協働課)〕

田代課長、浅野統括、小長井

2 事業報告会〔13:00～15:00〕

〔内容〕

令和元(2019)年度御殿場市市民協働型まちづくり事業補助金の実績報告のため、各団体・担当課のプレゼンテーション、質疑応答等を実施。「御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会」の委員 14 名を評価者として、本年度実施された市民提案事業 4 事業(新規 2 事業、継続 2 事業)の評価を行った。

【市民提案事業】

- (1) 事業名： 在来作物の伝承事業〔新規(1 年目)※昨年度「はじめの一步事業」〕
団体名： 「みくりや」農と食の研究会
担当課： 農政課

〔質疑応答〕

- (委員) 本当に期待していた事業で、成果を伺うことができて良かったと思う。来年度は小山町で事業を継続していくとのことだが、是非、作物が店頭に並ぶようになっていただきたい。
- (委員) 試食会にも参加させていただいた。こういったものが製品化され、農協のファーマーズなどで手に入ると良いと思う。
- (団体) 収支報告書を見ていただくとわかるとおり、現状では加工に要する経費が多くかかってしまうので、そこをクリアする必要はあると思う。とうもろこしの粉については、五味シェフとも協力しながら研究していきたいと思う。
- (委員) 農業という分野で専門性が高い中、行政がどのように関わっていくのか興味があった。報告書を見ると広報の部分ぐらいの関与となっていたが、やはり行政としては関わり方が難しかった

たのか。

- (団体) 専門的に農業をやっている方については、中核農業者協議会という組織があり、農協の営農指導や市・県などの行政も力を入れてやっているが、団体の認知度も低い中で、まだなかなか行政の関与は力が入っていない。しかし、今回担当課には報道機関対応や事業の周知に協力いただきながらやっていただけたと思っている。
- (委員) 今後は本補助金制度を活用せずに独自に取り組まれるとのことだが、是非今後行政を巻き込んで行うことができればよいと思う。
- (団体) 県の在来作物研究会とも連携しながら取り組んでおり、今後も行政にも関わっていただいて進めていきたいと思う。

- (2) 事業名: 御殿場フィルムコミッション支援事業〔3年目〕
団体名: NPO 御殿場フィルムネットワーク
担当課: 魅力発信課

〔質疑応答〕

- (委員) 今後も継続的に事業に取り組んでいただくとと思うが、今後の展開として「海外作品のロケ誘致」や「ロケ地巡りバスツアー」と記載しているが、例えば「ロケ地巡りマップ」などがあれば、私も旅行業を扱うので、組み込んでいくことができると思うが、そういったマップを作るような考えはあるか。
- (団体) 今年度「はじめの一步事業」を行った「御殿場黒澤明学会」で、特に黒澤明監督関係の事業に取り組みたい意向があると伺っていることもあり、当団体としては一部敢えて取り組まなかったこともある。
- (担当課) 「御殿場黒澤明学会」でそのようなマップを作りたいという考えもあるようなので、検討していきたいと考えている。
- (委員) 成果が数字で出てきていることを分かり易く説明いただいたと思う。成果の中で「民間と行政がそれぞれの強みを生かして」としているが、ここでいう「行政の強み」は何だと考えるか。
- (担当課) ロケを行う場合は、場所を借りたり市民にお願いするケースが多いが、行政でないと借りることができない場所があったり、市民としても行政が関わっている事での安心感があるなど、といったことがロケ誘致に関しての「行政の強み」だと思う。
- (委員) この3年間で市民協働事業としては一旦終わり、団体が活動していくことになるが、行政はどのように支援していくことになるのか。また、収入の面で「会費」などを自己資金として上げているが、HPの管理やメルマガの配信等で固定費用が掛かってくると思う。次年度以降の資金面も含めた運営方法についてお聞きしたい。
- (担当課) フィルムコミッション自体は市でも継続して取り組んでいく。具体的な資金面での支援は難しいが、お金のない中で連携して事業に取り組んでいく。今年度は次年度以降活動をどう継続していくのかを課題として事業に取り組んできたが、例えばロケの依頼があったときに、エキストラの手配について事務手数料をいただいたり、独自のイベント等を企画したりして固定費を捻出できる用途は立ったので、次年度以降はそうように事業を継続していく。
- (委員) 財源の確保に関連して、「ふるさと納税」や「クラウドファンディング」の活用など、ロケの聖地

として御殿場を上手くPR する中で、そういった寄付の形での取り組みは検討しているのか。

(担当課) 案としては出てはいるが、具体的にどう行うことができるのか、検討していきたい。

(委員) 資金面について問題となっていると思う。事業に取り組み始めたときには「身銭を切っている」という説明をいただいたことが記憶に残っているが、是非、そのような形ではなく、事業が継続できるようにしていただきたいし、行政としてもアドバイスをしっかりしてほしい。

(担当課) 分かりました。

(団体) 現在の市民協働型まちづくり事業補助金の制度では、外部に対する支出は許可されているが、内部への支出が許可されていない。例えば、ロケ地を調査するために車を出した際の交通費・燃料費などは補助対象経費になっていない、現に活動に係る経費を見ることが難しい。また、特定の時期にイベントを開催する場合などは良いが、年間を通じての事業や年度の遅い時期の事業をカバーできないなど、制度として使いづらい部分もあると感じた。

(3) 事業名: HALLOWEEN in GOTEMBA [2 年目]

団体名: 一般社団法人御殿場青年会議所

担当課: 商工振興課

[質疑応答]

(委員) 実際にイベントの様子も拝見させていただいた。事業については反省点が多くあったと説明があったが、それも含めて様々な指摘を報告書にまとめて提出させてもらったので、双方で精査いただきたいと思う。もともと御殿場の住人ではなく、これまでマイロードがどこなのかも知らなかったというのもあり、事業の周知はもっと早く行っていただきたかったと思う。事業計画では SNS を使って周知するとあったので待っていたが、全く情報が上がってこなかったのは残念に思う。今後の取り組みについて、その時だけその場に来ていただくだけでなく、「またその場所に来てもらう」ことができるまちづくりを目指してほしいと思う。

(団体) 次年度は3年目の事業ということで、いただいた御意見を踏まえて見直していきたいと思う。

(委員) 楽しい事業を計画されて良かった面もあるようだが、昨年度に引き続き実施された割には反省が生かされていないように感じる。団体として組織がある中で、毎年度代表や事業の担当者が変わっていることもあり、組織として意思の疎通が欠けていると思う。次年度も同様にハロウィンイベントを計画されるのであれば、現在のメンバーから次のメンバーへとしっかりと反省点を引き継いでいただき、事業を実施していただきたい。

(団体) 団体の組織の体制上、単年度ごとにメンバーが変わってしまう。達成できなかった点や反省点をしっかりと引き継いで事業を行っていきたい。

(委員) 団体としては昔から地域に根付いた様々な活動をしていると思うが、地域(商店街)をどのようにこの事業に巻き込んでいったのか。団体が中心となって事業を行ったことに意義があると思うが、地元商店街にどのように協力いただき、関わっていただいたのか。

(団体) 今回は駅周辺の商店に限定されてしまうが、お菓子配りなどで御協力いただいた。今日 y 六いただいた商店の方からも「面白かった」との御意見をいただき、子ども達と一緒に回った保護者の方からも「御殿場にこのようなお店があったんだ」との感想もいただくなど、御殿場の街に新たな関心や発見をいただいたことは良かったと思う。

(委員) 商店街の活性化というのは昔から叫ばれているが、こういったイベントを通じて商店街が自ら活性化していく取り組みに繋がるようなものとなると良いと思う。

- (4) 事業名: 富士山麓の生物多様性保全のための調査・啓発活動〔新規(1年目)〕
団体名: 特定非営利活動法人 土に還る木 森づくりの会
担当課: 環境課

〔質疑応答〕

(委員) 団体はこれまでの活動実績が豊富にあるが、今回、市民提案事業としては1年目となる。これまでの取り組みと今回の取り組みで、違う部分はどこになるのか。

(団体) これまで NPO 法人として様々な取り組みをしてきたが、やはり市民目線でものを考えることも必要だろうということで、生物多様性保全に係る取り組みについては視野を広くして、行政と協力して取り組んでいくことがベターだろうと考え、今回、環境課との協働事業を行った。

3 選考会〔15:00 ～16:30〕

〔内容〕

事業報告会でのプレゼンテーション及び質疑応答の状況、報告書の内容、採点結果(順位付)、委員からのコメント等を踏まえ、各事業の実施内容及び実績について協議を行った。

※市民提案事業 4 事業だけでなく、はじめの一步事業 1 事業についても協議

【市民提案事業】

- (1) 事業名: 在来作物の伝承事業〔新規(1年目)※昨年度「はじめの一步事業」〕
団体名: 「みくりや」農と食の研究会
担当課: 農政課

〔コメント(審査用紙自由記載欄)〕

- ・農政課の関わり方については残念。行政が遠慮していたのでしょうか。
- ・様々な商品化に期待します。
- ・圃場が小山町になっても続けるのは可能ではないのか。
- ・開発場所が小山に映るようだが、御殿場市民に向けて情報発信を続けてください。
- ・今後、ファーマーズなどで販売されることを期待する。
- ・規模を拡大して商品化できることを願っています。地場産に勝るものはないと思います。
- ・在来作物の栽培・開発は必要で取り組みは素晴らしいと思います。行政との関りを後方部分だけでなく深めていける手法に期待します。学校、市民への展開は良かった。

- ・子ども達への育成・教育も考えている点が継承という意味で素晴らしい。商品化も見据えて関係者の輪を広げている点も良い。産官学の連携が基本的にできている。是非御殿場でも継続してほしい。
- ・郷土の在来作物を活用した「食」に関係した新たな魅力創出は、地域活性化に繋がるものだと思う。協働を進める上で、市側の関わり（PR 以外に入っていける領域）を検討し、事業効果を高めていてもらいたい（地域ブランド化など）
- ・子ども、メディア、大学と様々な主体が入った良い事業だと感じた。3 年目を待たずして、自分たちの財源で活動が続けていくという姿勢も他の団体の模範になると感じた。
- ・実施団体が自分たちで事業を進めていくことができているので、協働する必要性をお互いに確認した上で実施していくことができれば、更に事業を進めやすくなるのではないかと思います。着実に前進している感じを受けました。
- ・事業内容と成果はすごく良いと思いました。団体としても目的がはっきりしていて、団体員も能力を発揮して事業を行っていたと感じられました。しかし、協働としてみたら行政の関りが少なく感じました。
- ・はじめの一步事業を含め、2 年間で補助金を受けずに継続していく体制をとれたことは素晴らしいと思います。今後も情報発信を工夫しながら実施していくと、認知度が増していくのではと思います。頑張ってください。

〔協議内容〕

- （委員） 次年度以降について、小山町で事業を実施する理由もあり、本補助金制度を利用しない予定とのことだが…
- （事務局） 農地法の関係もあり、3 年間同じ圃場を使うことに制限がかかってしまうことが理由の 1 つと伺っている。活動の根拠地を御殿場に置き活動する団体で、その効果が御殿場の地域や住民に向かうものであれば、例えば畑が小山町にあったとしても本補助金を受けることはできると思う。
- （委員） この団体だけでなく、今後の事も考え、補助金の対象となるかどうかは事務局で明確にできるように確認しておいてほしい。
- （事務局） はい。
- （委員） 行政は農業施策の面では関与するが、実際に「作物を作る」こと自体を行うことはなく、そのためどのように行政がこの事業に関わっていくのか興味があった。取り組みの実績を見ると、行政の関与は周知・広報が主で、専門性の高い部分は団体に任せてしまっており、あまり踏み込めていないように感じた。今後、商品開発・展開を進めることについて行政が関わっていくことができればよいし、学校や子ども達を巻き込んでいくことに教育分野で関与するなど、行政でできることも増えるのではと期待するところもあったが、1 年目で終わってしまうことは少し残念に思う。
- （委員） 団体としてあまり活動を広げることを望んではいないのか。規模を縮小したいという説明もあったが、在来作物を伝承させていく取り組みを続けていくのであれば、逆行してしまうように思う。
- （委員） 今回、次年度に継続しない理由があるのでは。補助金の制度として、もっと継続する気を起させるような検討が必要なのでは。行政のサポートに物足りない部分もあったのでは。

- (2) 事業名： 御殿場フィルムコミッション支援事業
団体名： NPO 御殿場フィルムネットワーク
担当課： 魅力発信課

〔コメント(審査用紙自由記載欄)〕

- ・今後、市民が行政の下請けにならない様に協働していただきたい。
- ・事業の継続には自主財源の確保が必須と思います。エキストラ会員から登録料を徴収する考えはどうか。
- ・若い方は、黒澤さんの作品を知らないと思うので、映画まつりでは作品を見せていただきたい。
- ・御殿場の魅力が市内外にアピールできている。メルマガにより市内でロケされたものを見る機会が増えてよい。協働としてお互いしっかりと動いている。
- ・期待しています。御殿場にお金が落ちるので、活性化に繋がっている。
- ・市の施策と上手くマッチングしている事業であったと感じました。市民のニーズや課題をとらえて、更なる活動に期待します。
- ・御殿場＝ロケの聖地となるよう、これからも効果的に PR を進めて御殿場のファンを増やし、シビックプライドを高めてください。
- ・「ロケの街」というイメージが浸透してきており、事業効果は着実に出てきていると思う。団体の運営基盤強化(自主財源の確保)に努め、市の他の観光資源との連携等を図り、市民協働を進めて市全体の発展に繋げていってもらいたい。
- ・御殿場の友人からも、「御殿場もロケやっているんだよね」というような話が聞けるようになった。3年間の活動を通じた成果が一市民にも浸透していける証拠だと思う。今後の活躍を応援したい。
- ・事業が3年目ということで、市民にもかなり周知され、活動の幅が広がり、順調に事業が拡大しているように思います。今後も市と連携して、自分たちにしかできない活動を続けていってもらいたいと思います。
- ・3年目で、協働事業でいうと集大成だったわけですが、成果も発展性も含めてよい事業だったと思います。今後も継続していくとのことでしたので、この3年間で得たものを生かして実施してほしいと思います。
- ・今後も継続的に事業が実施されていくことを期待します。

〔協議内容〕

- (委員) この事業については3年目ということもあり、協働の理解度や、行政の困っていること、団体のやりたいことが上手くマッチした良い事業となったと思う。これからも是非続けてほしい。報告会でも意見が出たが、今後の活動の活動資金をどう確保するかが重要な課題となると思うが、この事業は行政側も進めていきたいものだと思うので、自主財源も確保しつつ、行政の支援もあわせた形で事業が取り組まれると良いと思う。
- (委員) 団体からの、事業を実施する際の会員向けの燃料費等の支出について意見があったが、どう考えるか。
- (委員) 峻別が難しいが、何か方法はないか。
- (委員) 業務で私用車を利用する場合、使用前後のメーターの写真を提出させて、距離を記録させる方法もある。

- (委員) 業務のために使用した距離を記録簿に残して、それを証拠書類として出す方法もある。
- (委員) そもそも旅費や燃料費は補助対象経費になるのか。
- (委員) 内規では市外の場合は可能となっている。
- (委員) 過去に、会員に日当のような形(1回につきいくら)で燃料費を支出していた団体があり、それが不適切とされて現在の形になっている。
- (委員) どういった業務であればそれが許可されるのかという問題もあるし、どこからどこまでがこの事業に関するものなのかを判断するのが難しいのでは。

- (3) 事業名: HALLOWEEN in GOTEMBA
団体名: 一般社団法人御殿場青年会議所
担当課: 商工振興課

〔コメント(審査用紙自由記載欄)〕

- ・今年度の班選定を改善し、次年度に生かしていただきたい。
- ・昨年度の反省点を生かしていないと感じました。商店街の活性化に繋げてほしい。
- ・2年目の割には反省点が多すぎる。だが、反省点が見えたからこそ発展性に期待したい。
- ・ハロウィンのイベントはニュースで見えるものから御殿場でも参加できるものになってきた。是非、子ども達のために頑張ってください。
- ・参加させていただいた感想を提出してあるので御覧ください。行政はもう少し協働事業の進捗を追って欲しい。
- ・御殿場のハロウィンが定着しているが、発展性に欠ける。次年度に期待します。
- ・JCが中心になって こうしたイベントを開催したことに意義があったと思いますが、今後発展させていくには単発のイベントに終わらず、商店街や市民を巻き込んでいってほしいです。
- ・市の未来を担う子ども達にとって思い出となる素晴らしい事業だと思います。支援団体を増やして今後も頑張ってください。
- ・駅前商店街の活性化は、民間、行政ともに重要な課題である。今回の反省点(運営体制や手法、協働のあり方など)を踏まえ、市が行っている振興施策との相乗効果も検討しながら、多くの市民の参加を促進し、市民によるまちづくりを進めていってほしい。
- ・2年目ということで、昨年の反省を踏まえた実施とすることが出来たのか？今年も新たな反省点が多く見られたようだが、3年目、4年目以降を見据え、「資金面」「御殿場ならではの視点」を大切に3年目を迎えてほしい。
- ・当日、イベントの様子を見させてもらいましたが、子どももその親も楽しんでいたように思います。ただ、思っていたよりも人が少なかったと感じたので、次回は広報に力を入れていただき、更に良いイベントとなるようにこれまでの経験を生かしてほしいです。
- ・もう少し既存組織の強みを生かし、他の団体や他の組織と連携する工夫をしていただけたら良かったと思います。事業自体はハロウィンを楽しみたい市民の受け皿となり、町のにぎわい創出となる事業であったと思います。

〔協議内容〕 ※担当課に所属する委員が質問に対して回答している部分あり

- （委員） 反省点等の引継ぎが上手くできていないことについて報告会でも指摘したが、団体はこれを組織の問題としてとらえているようだが、3 年間事業を継続していくのであれば、団体として継続性がないと発展性もないし、毎年担当者が変わって反省点の引継ぎも上手くされないとなってしまう。考え方を变えていただく必要があるのでは。
- （委員） 担当者が毎年度変わってしまうのは団体の組織上どうしようもないが、引継ぎが全然できていないのが問題。担当課としても内容が殆ど変更のない 2 年目の事業で、前年度よりも当然良くできるとの考えはあったが、団体の動き鈍かったことで上手く回らなかった部分は多くあった。担当課としてもよりサポートしていきたい。
- （委員） 昨年も多く反省があった中での 2 年目事業ということで、また自身の活動する団体でも同様にハロウィンイベントを行っているということもあり注目していた。しかし、イベントの開催直前になっても SNS でも情報が全く上がっておらず、その時点で「行政は何をやっているんだ」と怒りを覚えた。実際に行われた周知の内容も、店舗の案内もなく、配るお菓子やコンテストの景品にもまちのものが殆ど使われていないなど、「まちづくり」を意識した発想がどうしてないのか残念に思った。「まちづくり」の協働であれば、もう一度その場所に行こうと思わせるような視点が必要だったと思うし、参加した子ども達もがっかりしていた。協力されていたお店の方にも話を伺ったが、「もっと相談してもらえれば協力することができたのに」という声もあった。次年度以降継続するのであれば頑張ってもらいたい、3 年目ということもあり、補助金がなくなった後でどのように継続していくことができるのかということを見据えた上で取組んで欲しい。
- （委員） チラシ・ポスターで 10 万円つかっているが、主なターゲットとなる年代は SNS を活用しているので、そういった広告費はかなり抑えられると思う。
- （委員） 担当課としても言うべきところはちゃんとやった方が良かった。
- （委員） 団体として、年間行事の中で担当を決めて様々な事業に取り組んでいる。今回、駅前でこういったイベントを行うこと自体は良かったとは思いますが、行政としては「ねらい」をしっかりと団体側に伝えて、上手く団体を通して駅前の活性化を図るように動くという視点があっても良かったと思う。
- （委員） 間際になって慌ただしく動いて、どうにか事業が実施できた。駅前の良い場所を確保して動いていたのに、周知・広報が遅く、十分にできなかった。もっとしっかりと計画を立てる必要があったと思う。他団体との連携についても 1 年目から指摘を受けていたが、団体としての動きが遅く、もっと行政側から働きかける必要があったかと思う。
- （委員） 団体の強みを生かす、引き出すことができるように行政がフォローすべきだったと思う。まずは引継ぎが重要だと思う。

- (4) 事業名： 富士山麓の生物多様性保全のための調査・啓発活動〔新規(1年目)〕
団体名： 特定非営利活動法人 土に還る木 森づくりの会
担当課： 環境課

〔コメント(審査用紙自由記載欄)〕

- ・今後、市内での啓発活動を活発に行っていただきたい。
- ・総合体験講座を南中だけでなく、市内の他の中学校でも実施してほしい。
- ・時間がかかるし難しい内容、将来を見て、なるべく子ども達に浸透させてほしい。
- ・温暖化が進む中、生物、森林の保全は大切。啓発活動を通して、環境の変化等を伝えてください。
- ・協働することにより多方面にPRできたのが良かった。
- ・子ども達に「自然を学ぶ機会」を与えていただく素晴らしい事業です。更に発展する可能性がある。
- ・団体として事業が推進されており、行政が共同で入る部分が少なかったように思います。学校等にも教育イベントが展開され、地道な活動がなされています。
- ・希少生物の調査結果を環境教育に結び付けており、素晴らしい。温暖化対策など問題意識が高いと感じた。
- ・所期の目的を達成するためには、作成した冊子をどのように活用していくかが重要。多くの子ども達が環境問題を考えるきっかけになるよう、市との連携を図りつつ、事業効果をしっかりとフォロー品が、取り組みを推進していてもらいたい。
- ・団体としての実績は十分であり、協働にも慣れている様子がうかがえた。行政との役割分担、波及効果を更に突き詰めて活動してほしい。
- ・総合体験講座やキッズアカデミー等、環境教育の場で子ども達に向けた発信をしているのはとても有意義な取り組みであり、今後も続けてもらいたいと思いました。
- ・団体としての活動は素晴らしいと思っています。しかし今回の事業は本を作る費用に使うのがメインで、この本を活用するために協働事業を行って欲しいと思いました。行政側の関わり方も改善したほうが良いと思います。
- ・情報発信の面で行政と団体が連携できればと思います。

〔協議内容〕

- (委員) 団体自体が既に仕上がりしており、別事業で「市民協働型まちづくり事業補助金」を活用したことがあるなど、団体独自の力で相当のところまでできる。そのため担当課としては関与できる部分が少なく、難しかったと思う。あくまでも「協働事業」であるということを考えると、団体と担当課の役割分担や、協働するからこそその波及効果を突き詰めて、同じレベルで活動してほしいと感じた。
- (委員) やはり「冊子7号」を発行するための補助金利用という印象が拭えなかった。今回は南中学校に行って環境教育を行っているが、団体としてはどちらかというと市外に目が向いているようだ。「まちづくり」であれば、もっと広く市内の子ども達に効果が行き渡るような取り組みにしてほしい。
- (委員) 「市内の子ども達に向けた環境教育を」という部分がまさに行政の出番だと思う。広く市内の

子ども達に向けた環境教育を軸に据えないと、冊子を作ることが目的では、となってしまう。

(委員) 学校も多くの事業を行っており、次年度のカリキュラムは1~2月にはもう決まってしまう。学校側に依頼する際には早期に「こういうことをやりたい」ということを伝えないと、急には対応が難しい。行政が上手く協働できる部分だと思う。

(委員) この事業は、次年度も申請予定なのか。

(事務局) はい。今年度作成した冊子を活用して環境教育イベントに取り組んでいきたいとのこと。

(委員) 小中学校のカリキュラムが1~2月に決まってしまう中で、遅くともその前までに学校との調整が必要になるが、本補助金制度の審査・選考は4月に行われ、開始は5月以降になってしまう。行うのであれば、事前に担当課で「環境教育イベント」の枠を持ったうえで、採択された場合に+αとして協働事業を組み込む形にすべきでは。

(委員) 今回作った冊子を活用して、生物多様性に興味がある方だけを集めたツアーの実施などでもできると思う。学校に限らず、子どもと保護者など、広く市民を募った形での環境教育イベントもできるのでは。

(委員) 提案時には「市内に効果が向くものとしてほしい」旨をお伝えしたと思うが、冊子の配布先を見ると市内ではなく市外を向いているように感じた。

【はじめの一步事業】

- (1) 事業名: 黒澤明監督と御殿場
団体名: 御殿場黒澤明学会
担当課: 魅力発信課

〔コメント(審査用紙自由記載欄)〕

- ・団体の仕組みをしっかりと作っていただきたい。
- ・趣味の会で終わることなく、市民に有益な事業となるよう、最終目的をどこに持っていくのか行政とよく話し合って将来性のあるものにしてほしい。
- ・若い方は黒澤さんの作品を知らないと思うので、映画まつりでは作品を見せていただきたい。
- ・今後に期待したい。
- ・短期間での成果は目に見えないが、素材がいいので継続していただきたい。
- ・フィルムコミッションとの典型がなされるといい。
- ・今後の目指していく方向性が何か見えにくかったです。
- ・黒澤明及び作品は御殿場の宝であり、貴重な文化資源であると思う。これからも着実に掘り下げていって市民に還元するとともに、対外PRしてほしい。
- ・実績報告からは、事業の実施体制や進め方が十分でないと判断できる(市補助金執行率22%)。まずは事業計画と収支計画をしっかりと固めることが重要。市の潜在的な魅力の一つとしてPRできるテーマなので、組織の運営体制等を含め、事業の実施方法、行政との役割分担などを再精査し、取り組みの充実化に繋げてもらいたい。
- ・団体の自己評価では「できなかった」が目立つが、はじめの一步として成功だったと思う。他事業で似た取り組みを行う者もあるので、参考とされながら、次年度以降の発展を期待したい。

- ・事業を実際にやってみたことで、色々と分かったことが多々あると思います。今後については、それらを是非生かす形で活動してもらいたいと感じました。
- ・次年度以降に今回の事業の成果を発表するような機会を設けてほしい。補助金をもっと有効的に利用できるように計画をしてほしい。

〔協議内容〕

- （委員） 先程もコメントにあったが、この団体は「黒澤明監督」を好きな人が集まって勉強する、とし
かとれず、どうやって市民協働の事業として展開していくのか、何をどのようにしていくのかと
いうのが見えなかった。
- （委員） 今後どうなるのかが全く分からず、評価が難しかった（できなかった）。
- （委員） フィルムネットワークなど、既に活動されている関連団体と上手く連携できないかと思った。
- （事務局） 1月の末頃に団体側から相談を受けた。6月に団体を立ち上げて取り組んできたが、様々な
理由があり思うように活動ができなかったとのこと。今後、団体としては継続されるとのことだ
が、代表、事務局は総入れ替えとなるとのこと。
- （委員） 申請時も役員3名のみの団体で活動に不安があった。次年度はどのように活動するのか。
- （事務局） 担当課からは、「市民提案事業」として事業の申請を考えていると伺っている。先程話が出
たマップの作成ではなく、看板の作成とロケ地の周知に取り組んでいきたいと考えているとの
こと。

【総括(市民協働型まちづくり事業補助金について)】

〔協議内容〕

- （委員） この報告で見るべきものが、「事業の成果」なのか「協働の成果」なのかがよく分からなくな
ってしまった。事務局からは「協働の成果」に重点を置いて説明してほしい旨の説明が最初
にあったが、団体のプレゼンでは「事業の成果」に重点が置かれており、実績報告書もまず
「事業の成果等」が先に来ている。これでは「協働って何のためにやっているのか」という部分
がぼやけてしまうので、「協働の成果」を重視するように報告書の様式を見直しても良いので
は。また、団体の持続可能な活動の観点から見た場合、補助金の制度としてやり辛い部分を
解消できるように緩和することも検討すべきでは。行政のルールがあって難しい部分もあると
思うが、そのルールの中で緩和できる部分は見直しをしていくべき。例えば、2 か年事業を許
可するような工夫も必要では。
- （委員） 「市民協働型まちづくり事業」として、最も重視すべきもの = 目的 は何なのか。「団体と行
政が協働で事業に取り組むこと」を最高位に置くのであれば、行政側は遠慮をしてはだめで、
もっと踏み込んで「協働」すべきだと感じた。団体に凄く気をつけているように感じる。
- （委員） 市民提案事業などは特に、団体がやりたいことを提案いただく場合が殆どのため、行政の
関わり方が難しい。ともに改善していくのであればいいが、踏み込みすぎると事業を歪めてし
まう。アドバイス、助言はできるけれど、「こうしろ」とは言えない。行政側でやってしまえば簡
単な部分も多いが、それでは行政が補助金を使うようなことになってしまう。ただ、団体側だ

けでなく行政側もどうやって「協働」を行うのか、という意識が欠けていると思う。今回の「フィルムコミッション」のように、相互にやりたいことを話し合いながら進めることができれば理想的だと思うが、どうしても「やりたいこと」と「やってほしいこと」のギャップから行政側が一步引いてしまったり、団体側に「やってもらっている」場合に遠慮してしまったりするのは。

（委員） 市民と行政の関係は非常に悩ましいところだと思う。そういう中で、「何故、協働をするのか？」ということを再度ゼロベースから共通理解をしていかないと、「協働事業」という看板を掲げる限りはそういった問題は続くと思う。この状況を変えていくためには、当然、行政側にも意識を変えていっていただき、相互に言いたいことを言い合える環境を作っていく必要があると思う。

（委員） 団体と行政の関係は、昔は行政から団体に補助金を交付するだけの一方的な関係だった。今は市民協働という形ができているが、最初は、団体側は「補助金がもらえるから」という理由で、行政も「行政だけではできないから団体の力を使おう」という理由のものしかなかった。経験を重ねていく中でお互いに対等な立場という部分を改めて重視する方向はあるが、今は過渡期のようなところがあって、施策と事業が上手くマッチングしたものはまだ稀なケース。これを本来のあるべき「協働」の姿にしていくためには、もっと双方の経験が必要だと思う。

（委員） 長年協議会の委員をやっているが、理想の協働というのは本当に難しいと思う。協議会として審査・選考、評価をする中で、「こうしたほうがいいのか」というアドバイスはできるが、団体や行政側に聞く気がないと、いくら言っても生かされずに終わってしまう。

（委員） 団体を見守り、育成していくための環境づくりも重要だと思う。団体と行政が話し合いながら進めていく「協働事業」だけでなく、市民の活動を盛り立てていくような分野も必要なのでは。

（事務局） 「市民活動支援事業補助金」として 1 団体 1 回限り、3 万円の補助を行う制度は、平成 23（2011）年度から行っている。年間の利用件数は 1～2 件程度。

（委員） そこを例えば団体の持続的な活動を支援するために金額を上げる、複数回受けることを可能にするなど環境を整えることも必要なのでは。

（事務局） 純粋に「市民活動団体の活動を応援する」というものも求められているので、検討する必要があると思う。

（委員） 長く市民協働に関わっているが、徐々に団体と行政の関係は良くなってきていると思う。開始当初はイベント実施が殆どだった。

（委員） 行政側の担当者も比較的経験が浅い職員が多いように思われた。そのため協働に対する知識・意識がなく、団体への上手いアドバイスが難しいために踏み込めないということもあるのでは。行政が団体の思いを上手く汲んで導いてあげることができればよいが、まだそこまでは難しいのかとも思う。

（委員） 市民活動支援センターにおいても、市民協働型まちづくり事業補助金に関する相談は減っている。以前は相談日を設けるなどしていたが、今は殆どない。書類作成等をハードルに感じている団体も多いのでは。

（委員） 団体は書類作成などを難しく感じる場合も多いと思うので、そこを支援できるような仕組みを考えるのも良いと思う。

5 協議会(報告・協議事項) [16:30 ~16:50]

①協議会 副会長の選任について

前任の藤田副会長が委員を辞されたことに伴い空席となっている協議会副会長について、立候補、推薦者を確認。いずれもなかったため、事務局案として 芹澤 直己 委員を副会長として推薦させていただくことを提案し、委員協議の結果、芹澤 直己 委員が副会長に選出された。

※芹澤 直己委員は当日欠席であったが、事前に事務局で意向を確認し、了承をいただいていた。

〔副 会 長〕 芹澤 直己 委員

②第 5 回協議会(視察研修)の報告、感想・意見について

令和元年 12 月 26 日(木)に第 5 回市民協働型まちづくり推進協議会として行った先進地視察研修(東京都西東京市)について事務局から報告し、委員間で改めて認識の共有を図ることを目的として感想・意見の発表を行った。

〔感想・意見〕

(委員) 西東京市の指針はイラストなどを使用して分かり易く、身近に感じた。御殿場市の指針も何度か読ませてもらったが、内容に頭が追いつかず、何回読んでも分からなかった。このように目で見て分かり易い形は良かったと思う。

(委員) 西東京市は協働事業の報告会がないとのことだった。また審査に先立って担当課も含めて協議を行い、協働に向かないものや担当課側でできないものはそこで弾いているのは意外だった。

(委員) そういった部分で、行政側も遠慮することなく団体と話し合うことができる環境が整っているのではと思う。

(委員) 西東京市では相互検証の段階でも協働担当課が間に入ってやっているという話をしていたと思う。御殿場市では市民協働に係る研修を行なっているが、相互検証を行うにあたって、協働自体の理解やそもそもどうやって相互評価を行えばいいのかが分からないのでは。協働意識が上がってきたとはいえ、そういった部分に市民協働課が入ってフォローする必要があると思う。